

平成30年中の姫路市の人口の動き

姫路市総務局情報政策室

1. はじめに

本書は、平成30年中の姫路市の人口の動きをまとめたもので、人口動態は、住民基本台帳法に基づく出生・死亡・転入・転出の届出を集計したものである。本文において出てくる人口増減数は〔自然増減数+社会増減数〕、自然増減数は〔出生数-死亡数〕、社会増減数は〔転入者数-転出者数+その他〕、転入超過数は〔転入者数-転出者数〕、人口動態率等の比率(%)は〔人口千人あたりの比率〕を意味する。平成18年3月27日に合併した4町(家島町、夢前町、香寺町、安富町)については、平成18年3月の数値より含まれている。

2. 人口動態

人口は6年連続で減少したものの、社会増減は6年ぶりにプラスに転じた。

(1) 概況

平成30年中の人口動態をみると、人口増減数は△1,387人で、前年から引き続き人口減少となった。人口増減を、自然増減と社会増減に分けてみると、自然増減数は1,496人減少、社会増減数は109人増加となった。平成30年中の人口減少は、自然増減に起因する。自然増減数を前年と比べると、△1,076人よりさらに420人減少し、△1,496人となった。一方、社会増減数については、前年の△436人から545人増加し、109人となり、6年ぶりにプラスに転じた。

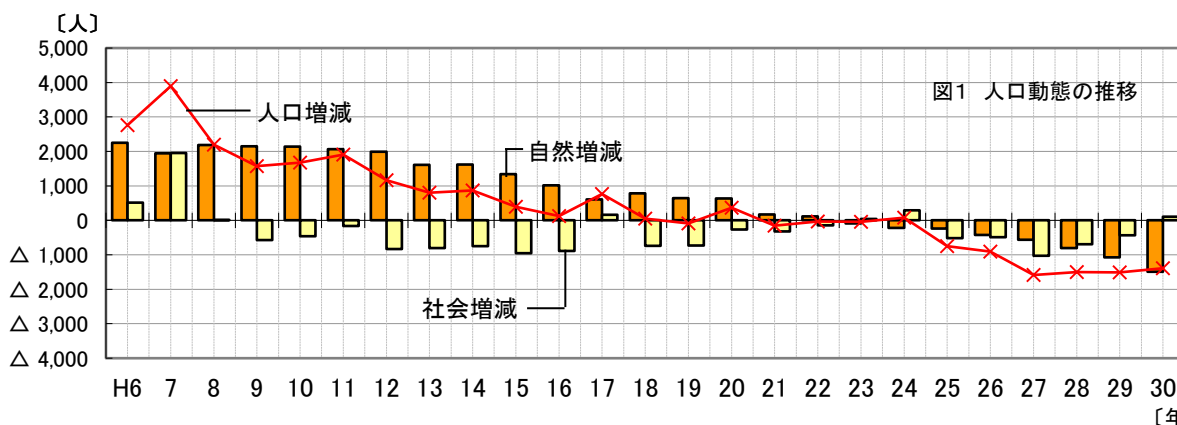


表1 人口動態の推移

(単位：人)

区分	人口増減	自然動態			社会動態			
		自然増減	出生	死亡	社会増減	転入	転出	その他
H6	2,761	2,249	5,521	3,272	512	16,783	16,528	257
7	3,896	1,942	5,352	3,410	1,954	18,881	17,192	265
8	2,200	2,189	5,566	3,377	11	16,943	17,132	200
9	1,575	2,151	5,635	3,484	△ 576	16,460	17,197	161
10	1,678	2,138	5,814	3,676	△ 460	16,598	16,993	△ 65
11	1,911	2,070	5,575	3,505	△ 159	16,286	16,630	185
12	1,168	1,996	5,663	3,667	△ 828	15,950	16,903	125
13	805	1,607	5,350	3,743	△ 802	16,081	17,066	183
14	870	1,616	5,280	3,664	△ 746	15,852	16,636	38
15	396	1,345	5,069	3,724	△ 949	15,810	16,859	100
16	126	1,013	4,994	3,981	△ 887	15,410	16,426	129
17	764	606	4,646	4,040	158	15,238	15,206	126
18	47	782	5,220	4,438	△ 735	15,232	16,035	68
19	△ 85	642	5,255	4,613	△ 727	14,654	15,650	269
20	363	631	5,091	4,460	△ 268	14,278	14,895	349
21	△ 152	171	5,055	4,884	△ 323	13,879	14,528	326
22	△ 29	119	4,999	4,880	△ 148	13,608	13,998	242
23	△ 42	△ 85	5,019	5,104	43	14,042	14,154	155
24	75	△ 217	5,023	5,240	292	13,673	13,464	83
25	△ 750	△ 238	4,865	5,103	△ 512	12,945	13,750	293
26	△ 908	△ 423	4,724	5,147	△ 485	12,916	14,037	636
27	△ 1,586	△ 562	4,708	5,270	△ 1,024	13,806	14,814	△ 16
28	△ 1,497	△ 808	4,477	5,285	△ 689	13,008	14,071	374
29	△ 1,512	△ 1,076	4,343	5,419	△ 436	14,175	14,532	△ 79
30	△ 1,387	△ 1,496	4,192	5,688	109	14,449	14,236	△ 104

注) 外国人を含む。

(2) 男女別人口動態の推移

自然減数が男女とも拡大した一方、社会増減数は男性がプラスに、女性も減少幅が縮小した。

男女別の人口動態をみると、平成30年中の人口増減数は、男性が△635人、女性が△752人で、前年の男性△736人、女性△776人から男性が101人、女性が24人それぞれ増加した。また、自然増減、社会増減数別にみると、自然増減数は、男性が△769人、女性が△727人で、前年の男性△634人、女性△442人から男性が135人、女性が285人それぞれ減少した。また、社会増減数は、男性が134人、女性が△25人で、前年の男性△102人、女性△334人から男性が236人、女性が309人増加となった。

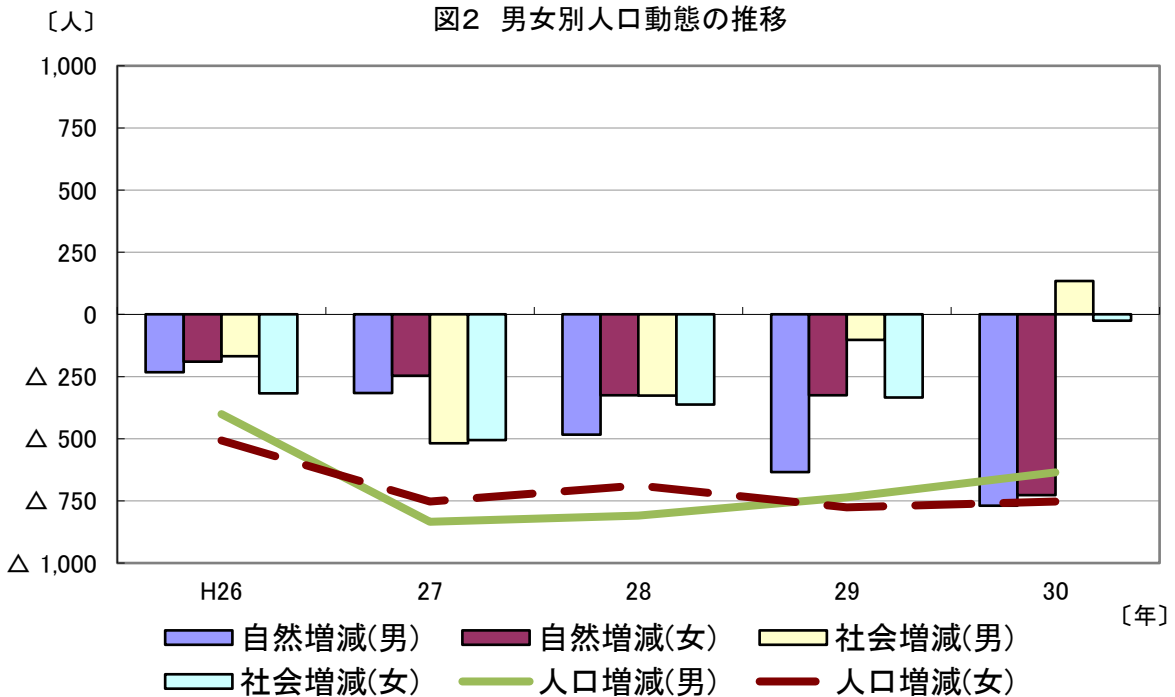


表2 男女別人口動態の推移

(単位：人)

区 分	人 口 増 減	自 然 動 態			社 会 動 態				
		自然増減	出 生	死 亡	社会増減	転 入	転 出	その他	
総 数	H26	△ 908	△ 423	4,724	5,147	△ 485	12,916	14,037	636
	27	△ 1,586	△ 562	4,708	5,270	△ 1,024	13,806	14,814	△ 16
	28	△ 1,497	△ 808	4,477	5,285	△ 689	13,008	14,071	374
	29	△ 1,512	△ 1,076	4,343	5,419	△ 436	14,175	14,532	△ 79
	30	△ 1,387	△ 1,496	4,192	5,688	109	14,449	14,236	△ 104
男	H26	△ 401	△ 233	2,439	2,672	△ 168	7,057	7,556	331
	27	△ 834	△ 316	2,412	2,728	△ 518	7,588	8,119	13
	28	△ 809	△ 483	2,315	2,798	△ 326	7,046	7,528	156
	29	△ 736	△ 634	2,211	2,845	△ 102	7,637	7,723	△ 16
	30	△ 635	△ 769	2,134	2,903	134	7,877	7,704	△ 39
女	H26	△ 507	△ 190	2,285	2,475	△ 317	5,859	6,481	305
	27	△ 752	△ 246	2,296	2,542	△ 506	6,218	6,695	△ 29
	28	△ 688	△ 325	2,162	2,487	△ 363	5,962	6,543	218
	29	△ 776	△ 442	2,132	2,574	△ 334	6,538	6,809	△ 63
	30	△ 752	△ 727	2,058	2,785	△ 25	6,572	6,532	△ 65

注) 外国人を含む。

(3) 月別人口動態の推移

人口増減数は3月に最も減少し、10月に最も増加した。

平成30年中の月別の人口動態をみると、人口増減数は、4月、5月、10月のみで増加となり、逆に減少となったのは、1月から3月、6月から9月、11月、12月で、減少数が最大となったのは3月の△723人であった。また、自然動態、社会動態別にみると、自然増減数は昨年に引き続き、全ての月で減少となった。一方、社会増減数は、1月、2月、4月、5月、8月、10月、12月で増加となり、逆に減少となったのは、3月、6月、7月、9月、11月であった。

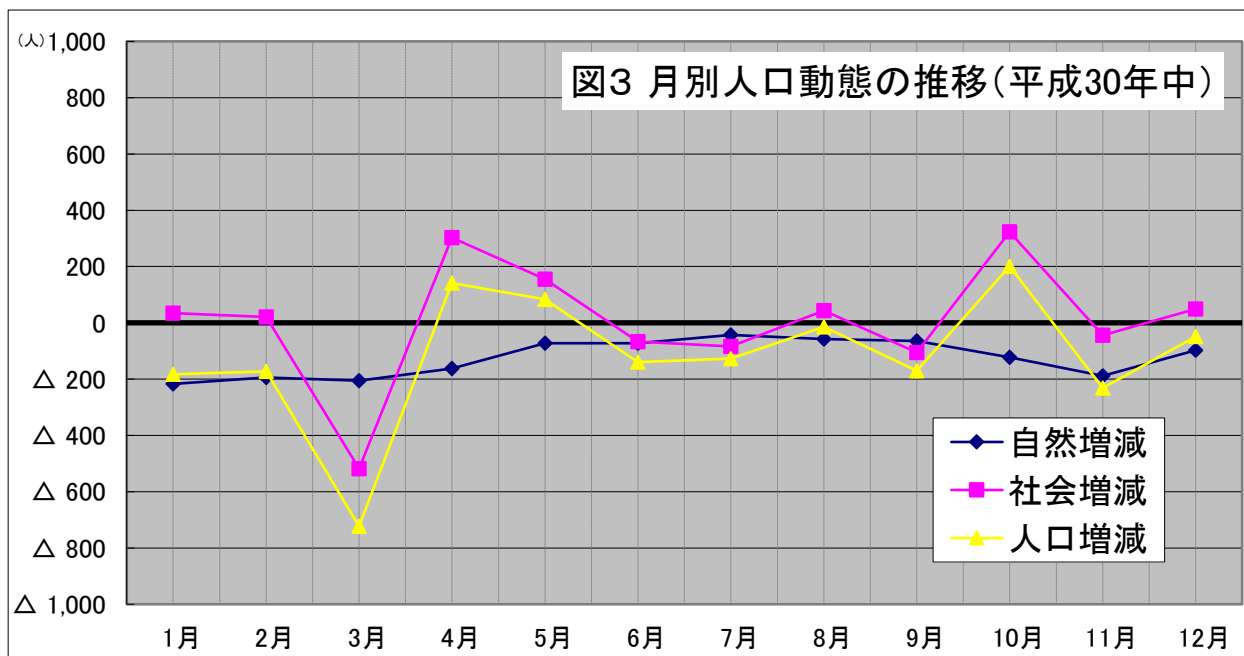


表3 月別人口動態の推移(平成30年中)

(単位:人)

区 分	人口増減	自 然 動 態			社 会 動 態			
		自然増減	出 生	死 亡	社会増減	転 入	転 出	その他
H30年総数	△ 1,387	△ 1,496	4,192	5,688	109	14,449	14,236	△ 104
1月	△ 183	△ 217	406	623	34	868	830	△ 4
2月	△ 173	△ 194	319	513	21	888	854	△ 13
3月	△ 723	△ 205	329	534	△ 518	2,401	2,908	△ 11
4月	141	△ 162	275	437	303	2,044	1,743	2
5月	83	△ 72	405	477	155	1,158	1,001	△ 2
6月	△ 140	△ 73	310	383	△ 67	919	971	△ 15
7月	△ 127	△ 43	405	448	△ 84	991	1,063	△ 12
8月	△ 15	△ 58	389	447	43	1,120	1,059	△ 18
9月	△ 170	△ 64	318	382	△ 106	955	1,060	△ 1
10月	201	△ 122	361	483	323	1,291	961	△ 7
11月	△ 232	△ 188	343	531	△ 44	839	869	△ 14
12月	△ 49	△ 98	332	430	49	975	917	△ 9

注) 外国人を含む。

3. 自然動態
(1) 概況

自然増減数は12年連続で減少、かつ8年連続でマイナスとなった。

平成30年中の自然動態をみると、自然増減数は△1,496人で、前年の△1,076人から420人減少した。このため、自然増減率は△2.82‰となり、前年の△2.02‰と比べ、0.80ポイント低下し、自然増減数、自然増減率ともに前年と比べて大幅な減少となった。また、出生、死亡別にみると、平成30年中の出生数は4,192人で、前年の4,343人から151人減少し、6年連続で前年を下回った。出生率は7.89‰となり、前年の8.15‰から0.26ポイント低下した。また、死亡数は5,688人で8年連続で5,000人超となり、前年の5,419人から269人増加した。このため、死亡率は10.71‰となり、前年と比べ、0.54ポイント上昇した。

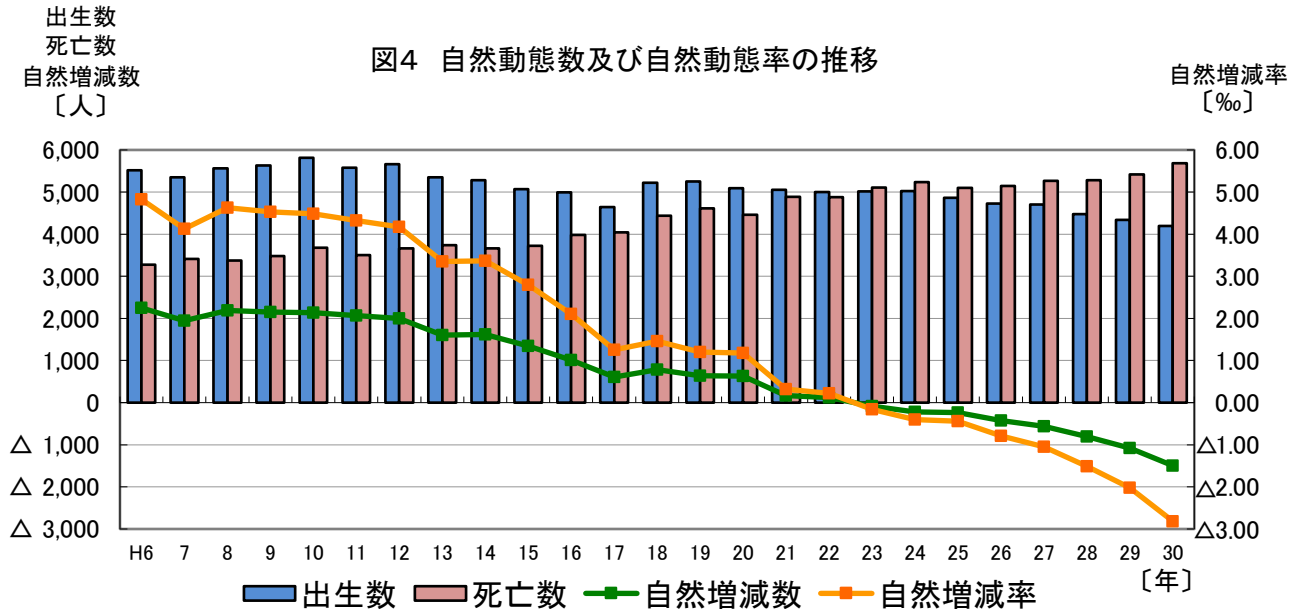


表4 自然動態数及び自然動態率の推移

(単位：人，‰)

区分	自然増減数	出生数	死亡数	自然増減率	出生率	死亡率	人口 (10月1日現在)
H6	2,249	5,521	3,272	4.83	11.85	7.02	465,941
* 7	1,942	5,352	3,410	4.12	11.36	7.24	470,986
8	2,189	5,566	3,377	4.63	11.76	7.14	473,177
9	2,151	5,635	3,484	4.53	11.86	7.33	475,167
10	2,138	5,814	3,676	4.48	12.19	7.71	476,800
11	2,070	5,575	3,505	4.33	11.65	7.33	478,433
* 12	1,996	5,663	3,667	4.17	11.84	7.67	478,309
13	1,607	5,350	3,743	3.35	11.16	7.81	479,431
14	1,616	5,280	3,664	3.37	11.00	7.63	480,147
15	1,345	5,069	3,724	2.80	10.55	7.75	480,684
16	1,013	4,994	3,981	2.11	10.38	8.28	481,011
* 17	606	4,646	4,040	1.26	9.63	8.38	482,304
18	782	5,220	4,438	1.46	9.74	8.28	536,067
19	642	5,255	4,613	1.20	9.80	8.60	536,256
20	631	5,091	4,460	1.18	9.49	8.31	536,502
21	171	5,055	4,884	0.32	9.42	9.10	536,447
* 22	119	4,999	4,880	0.22	9.32	9.10	536,270
23	△ 85	5,019	5,104	△ 0.16	9.36	9.52	536,370
24	△ 217	5,023	5,240	△ 0.40	9.37	9.77	536,300
25	△ 238	4,865	5,103	△ 0.44	9.08	9.52	535,783
26	△ 423	4,724	5,147	△ 0.79	8.83	9.62	534,794
* 27	△ 562	4,708	5,270	△ 1.05	8.79	9.84	535,664
28	△ 808	4,477	5,285	△ 1.51	8.38	9.89	534,452
29	△ 1,076	4,343	5,419	△ 2.02	8.15	10.17	532,994
30	△ 1,496	4,192	5,688	△ 2.82	7.89	10.71	531,298

注) ※の人口は国勢調査結果における人口、それ以外は推計人口。外国人を含む。

(2) 出生率及び死亡率の推移

出生率は6年連続低下、一方で死亡率は5年連続上昇、過去25年間で最低と最高となった。

出生率の推移をみると、姫路市の出生率は7.89‰と前年の8.15‰から0.26ポイント低下した。全国の出生率と比べると、過去25年間、常に全国の数値を上回っており、平成10年には最大の2.68ポイント上回ったが、近年では、姫路市の出生率の低下傾向が大きくなり、平成30年は、その差が0.65ポイントと全国の出生率に近づいてきている。一方、死亡率をみると、姫路市では、平成30年は10.71‰となり、前年と比べ、0.54ポイント上昇した。過去25年間では多少の増減がありつつも増加傾向をたどっている。また、全国の死亡率と比べると、姫路市では全国とほぼ同様の推移をたどっている。

図5 出生率及び死亡率の推移(姫路市、全国)

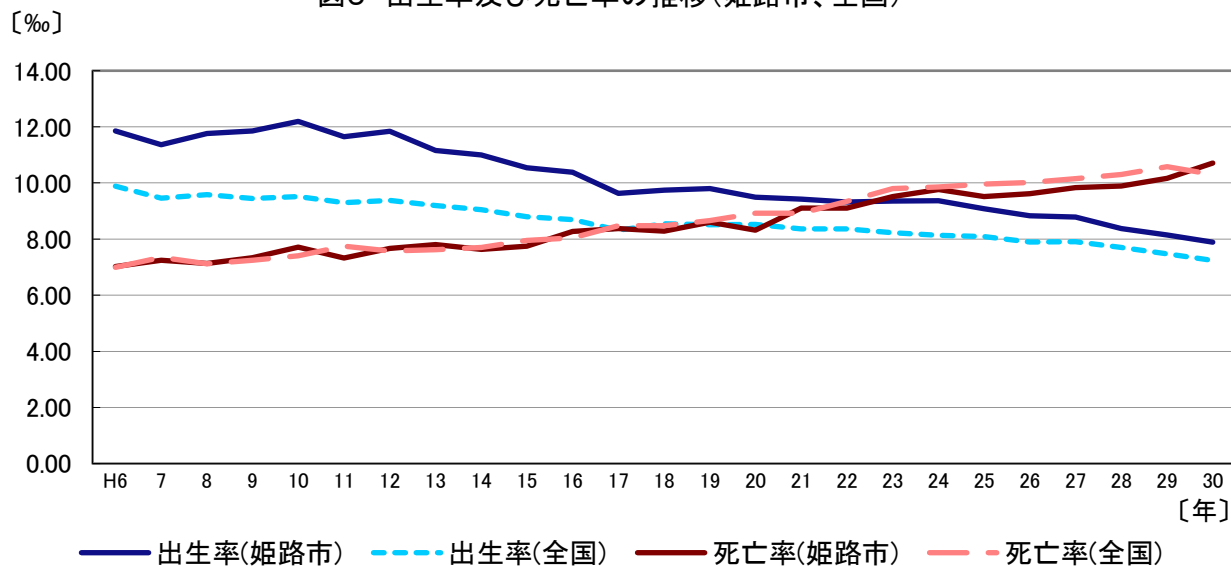


表5 出生率及び死亡率の推移(姫路市、全国)

(単位：‰)

区分	出生率		死亡率	
	姫路市	全国	姫路市	全国
H6	11.85	9.89	7.02	6.99
7	11.36	9.45	7.24	7.34
8	11.76	9.59	7.14	7.12
9	11.86	9.45	7.33	7.24
10	12.19	9.51	7.71	7.40
11	11.65	9.30	7.33	7.75
12	11.84	9.38	7.67	7.58
13	11.16	9.19	7.81	7.62
14	11.00	9.05	7.63	7.71
15	10.55	8.80	7.75	7.95
16	10.38	8.69	8.28	8.05
17	9.63	8.32	8.38	8.48
18	9.74	8.54	8.28	8.48
19	9.80	8.51	8.60	8.66
20	9.49	8.52	8.31	8.92
21	9.42	8.36	9.10	8.92
22	9.32	8.37	9.10	9.35
23	9.36	8.22	9.52	9.80
24	9.37	8.13	9.77	9.85
25	9.08	8.09	9.52	9.96
26	8.83	7.90	9.62	10.02
27	8.79	7.91	9.84	10.15
28	8.38	7.70	9.89	10.30
29	8.15	7.47	10.17	10.58
30	7.89	7.24	10.71	10.30

注) 姫路市の数値には外国人を含む。
平成30年の全国の数値は人口動態調査(概数)より算出。

4. 社会動態
(1) 概況

転入超過数・超過率ともに2年連続で増加、かつ6年ぶりにプラスとなった。

平成30年中の社会動態をみると、転入超過数は213人で、前年の△357人から570人増加した。このため、転入超過率は0.40‰となり、前年の△0.67‰と比べ、1.07ポイント上昇し、6年ぶりにプラスとなった。また、転入、転出別にみると、平成30年中の転入者数は14,449人で、前年の14,175人から274人増加した。このため、転入率は27.20‰となり、前年の26.60‰と比べ、0.60ポイント上昇した。また、転出者数は14,236人で、前年の14,532人と比べ、296人減少した。このため、転出率は26.79‰で、前年の27.26‰と比べ、0.47ポイント低下した。

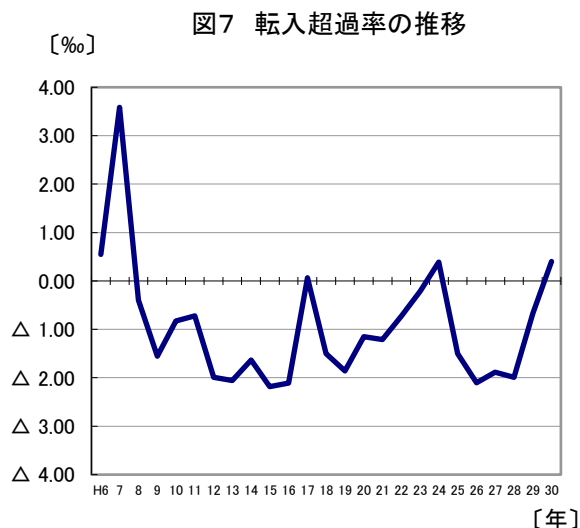
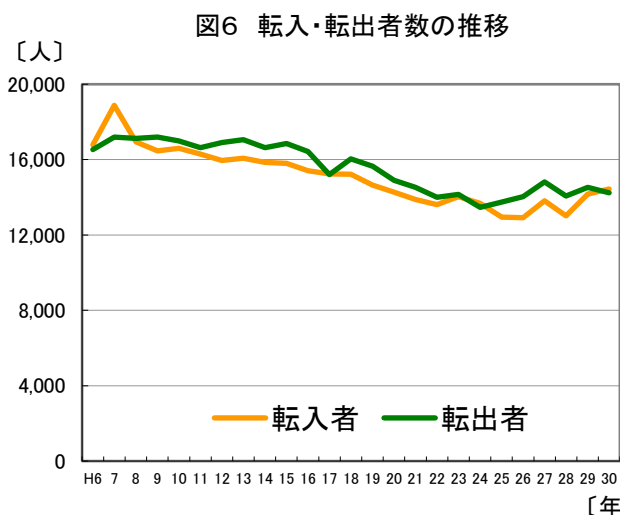


表6 社会動態数及び社会動態率の推移

(単位：人，‰)

区分	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過率	転入率	転出率	人口 (10月1日現在)
H6	255	16,783	16,528	0.55	36.02	35.47	465,941
※ 7	1,689	18,881	17,192	3.59	40.09	36.50	470,986
8	△ 189	16,943	17,132	△0.40	35.81	36.21	473,177
9	△ 737	16,460	17,197	△1.55	34.64	36.19	475,167
10	△ 395	16,598	16,993	△0.83	34.81	35.64	476,800
11	△ 344	16,286	16,630	△0.72	34.04	34.76	478,433
※ 12	△ 953	15,950	16,903	△1.99	33.35	35.34	478,309
13	△ 985	16,081	17,066	△2.05	33.54	35.60	479,431
14	△ 784	15,852	16,636	△1.63	33.01	34.65	480,147
15	△ 1,049	15,810	16,859	△2.18	32.89	35.07	480,684
16	△ 1,016	15,410	16,426	△2.11	32.04	34.15	481,011
※ 17	32	15,238	15,206	0.07	31.59	31.53	482,304
18	△ 803	15,232	16,035	△1.50	28.41	29.91	536,067
19	△ 996	14,654	15,650	△1.86	27.33	29.18	536,256
20	△ 617	14,278	14,895	△1.15	26.61	27.76	536,502
21	△ 649	13,879	14,528	△1.21	25.87	27.08	536,447
※ 22	△ 390	13,608	13,998	△0.73	25.38	26.10	536,270
23	△ 112	14,042	14,154	△0.21	26.18	26.39	536,370
24	209	13,673	13,464	0.39	25.50	25.11	536,300
25	△ 805	12,945	13,750	△1.50	24.16	25.66	535,783
26	△ 1,121	12,916	14,037	△2.10	24.15	26.25	534,794
※ 27	△ 1,008	13,806	14,814	△1.88	25.77	27.65	535,664
28	△ 1,063	13,008	14,071	△1.99	24.34	26.33	534,452
29	△ 357	14,175	14,532	△0.67	26.60	27.26	532,994
30	213	14,449	14,236	0.40	27.20	26.79	531,298

注) ※の人口は国勢調査結果における人口、それ以外は推計人口。
外国人を含む。

(2) 県内地域別転入・転出者数の推移

県内の転入超過数は昨年に引き続きプラスとなり転入者数、転出者数いずれも昨年と比べて減少した。

県内の社会動態をみると、平成30年中の転入超過数は220人で、前年の175人から、45人増加した。地域別にみると、西播磨地域の372人、中播磨地域の165人など4つの地域で転入超過数がプラスであったのに対し、神戸地域の△299人、阪神南地域の△151人など4つ地域ではマイナスであった。また、転入、転出者数別にみると、平成30年中の転入者数は5,988人で、前年の6,058人と比べ、70人減少した。地域別にみると、西播磨地域の1,689人が最も多く、次いで東播磨地域の1,549人、神戸地域の978人となった。また、転出者数は5,768人で、前年の5,883人と比べ、115人減少した。地域別にみると、東播磨地域の1,593人が最も多く、次いで西播磨地域の1,317人、神戸地域の1,277人となった。

〔人〕 図8 県内地域別転入・転出者数

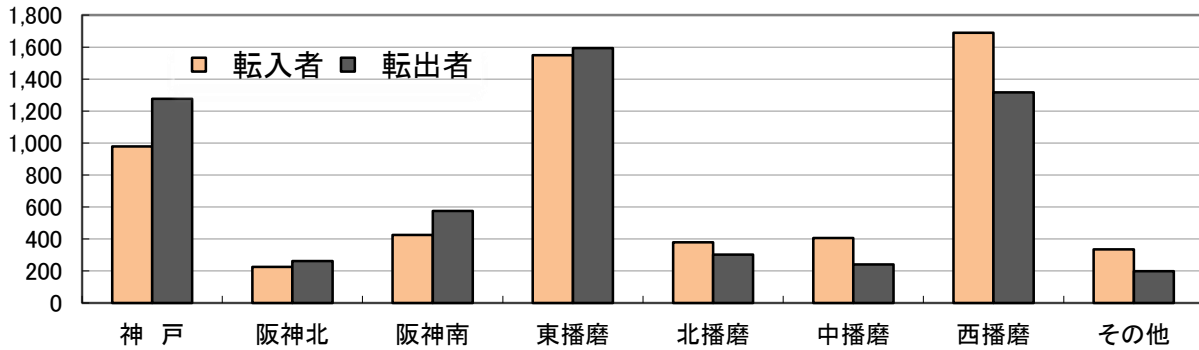


表7 県内地域別転入・転出者数の推移

区分	総数	神戸	阪神北	阪神南	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	その他
転入超過数									
H26	48	△ 221	△ 6	△ 87	△ 114	87	9	334	46
27	△ 290	△ 441	△ 45	△ 143	△ 57	29	93	199	75
28	△ 53	△ 317	△ 53	△ 65	△ 132	△ 49	108	379	76
29	175	△ 266	△ 115	△ 100	21	35	93	446	61
30	220	△ 299	△ 37	△ 151	△ 44	77	165	372	137
転入者数									
H26	6,088	1,070	253	439	1,565	421	363	1,747	293
27	5,971	947	242	401	1,583	366	394	1,703	335
28	5,774	971	229	470	1,517	293	381	1,636	277
29	6,058	1,010	179	441	1,601	357	426	1,766	278
30	5,988	978	225	425	1,549	380	407	1,689	335
転出者数									
H26	6,040	1,228	259	526	1,679	334	354	1,413	247
27	6,261	1,388	287	544	1,640	337	301	1,504	260
28	5,827	1,288	282	535	1,649	342	273	1,257	201
29	5,883	1,276	294	541	1,580	322	333	1,320	217
30	5,768	1,277	262	576	1,593	303	242	1,317	198

注) 外国人を含まない。

合併があった市町については、合併期日以前は旧市町地域で、合併期日以後は新市町地域で計上している。

〔地域区分〕

神戸地域：神戸市

阪神北地域：伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町

阪神南地域：尼崎市、西宮市、芦屋市

東播磨地域：明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町

北播磨地域：西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町

中播磨地域：市川町、福崎町、神河町

西播磨地域：相生市、赤穂市、宍粟市、たつの市、太子町、上郡町、佐用町

その他の地域：豊岡市、篠山市、丹波市、洲本市、淡路市、南あわじ市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町

(3) 県外地域別転入・転出者数の推移

県外の転入超過数は昨年と比べて増加したものの、引き続きマイナスとなった。

県外の社会動態をみると、平成30年中の転入超過数は△736人で、前年の△1,121人と比べ、385人増加した。地域別にみると、中国・四国地方の296人をはじめ、九州・沖縄地方の114人、北海道・東北地方の16人など4つの地域で転入超過数がプラスとなった一方で、関東地方の△609人、近畿地方の△522人など3つの地域で転入超過数がマイナスとなった。また、転入、転出者数別にみると、平成30年中の転入者数は6,766人で、前年の6,511人と比べ、255人増加した。地域別にみると、近畿地方の2,046人が最も多く、次いで中国・四国地方の1,387人、関東地方の1,157人となった。また、転出者数は7,502人で、前年の7,632人と比べ、130人減少した。地域別にみると、近畿地方の2,568人が最も多く、次いで関東地方の1,766人、中国・四国地方の1,091人となった。

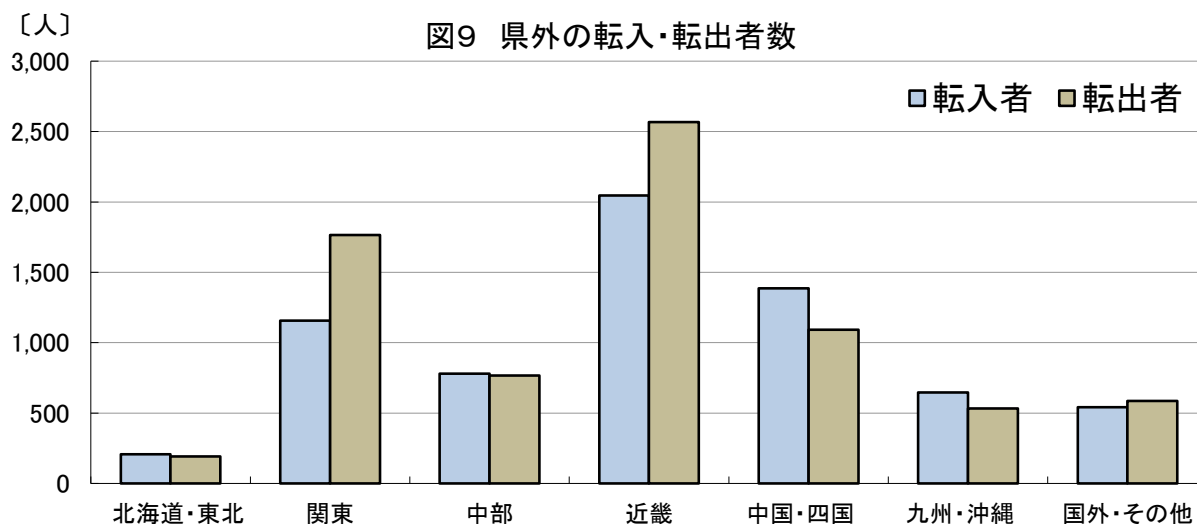


表8 県外地域別転入・転出者数の推移

区分	総数	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	国外・その他
転入超過数								
H26	△ 846	△ 25	△ 541	△ 130	△ 142	△ 48	93	△ 53
27	△ 1,037	24	△ 451	△ 253	△ 431	68	63	△ 57
28	△ 1,031	△ 10	△ 641	△ 89	△ 476	132	124	△ 71
29	△ 1,121	△ 19	△ 601	△ 63	△ 485	41	30	△ 24
30	△ 736	16	△ 609	14	△ 522	296	114	△ 45
転入者数								
H26	6,384	183	1,089	686	2,104	1,225	626	471
27	6,713	221	1,157	744	2,115	1,365	591	520
28	6,432	193	1,128	744	1,964	1,283	632	488
29	6,511	181	1,154	735	2,089	1,242	605	505
30	6,766	207	1,157	781	2,046	1,387	647	541
転出者数								
H26	7,230	208	1,630	816	2,246	1,273	533	524
27	7,750	197	1,608	997	2,546	1,297	528	577
28	7,463	203	1,769	833	2,440	1,151	508	559
29	7,632	200	1,755	798	2,574	1,201	575	529
30	7,502	191	1,766	767	2,568	1,091	533	586

注) 外国人を含まない。

[地方区分]

北海道・東北地方：北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿地方：滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県

中国・四国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州・沖縄地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県